

評価項目			ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	説明	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	【DP1】幅広い教養と全体像を俯瞰できる能力	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて多様な視点から医療や健康の全体像を俯瞰できる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る教養を身に付けていない。	自然科学、人文科学、社会科学に係る教養を部分的に身に付けている。	自然科学、人文科学、社会科学に係る教養を概ね身に付けており、異なる複数の視点からものを捉えることができる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えて多様な視点から医療や健康の全体像を俯瞰する視点が部分的に形成されている。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えて多様な視点から医療や健康の全体像を俯瞰できる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えて多様な視点から医療や健康の全体像を俯瞰し、複雑な課題を考察できる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えて多様な視点から医療や健康の全体像を俯瞰し、複雑な課題を考察し、適切に解決できる。
b	【DP2】医療に携わる者としての高い倫理観と使命感	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けている。	医療に携わる者としての倫理観と使命感を身に付けていない。	医療に携わる者としての倫理観と使命感の重要性を意識することができる。	医療に携わる者としての倫理観と使命感について部分的に理解している。	医療に携わる者としての倫理観と使命感について理解し、説明できる。	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けている。	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けており、行動で発揮できる。	医療に携わる者としての高い倫理観と使命感に基づき、周囲の模範となる行動ができる。
c	【DP3】薬剤師の職能の基盤となる専門的な知識と関連する技能、責任ある行動を実践できる態度	薬学教育モデル・コア・カリキュラムに定義される、薬剤師の職能の基盤となる専門的な知識と関連する技能、それらを医療の場で適切に発揮するために責任ある行動を実践できる態度を身に付けている。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度を身に付けていない。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度の基礎的な部分を一部身に付けている。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度の基礎的な部分を身に付けている。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度を概ね身に付けている。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度を身に付けている。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度を応用し、複雑な課題に取り組むことができる。	薬学教育コアカリキュラムに定義される知識・技能・態度を医療現場で適切に発揮できる。
d	【DP4】コミュニケーション能力と国際的な視野	医療に携わる者として修得した専門知識や教養をもとに他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野をもって活躍できる。	専門知識や教養をもとに他者とコミュニケーションをとることができず、国際的な視野も身に付けていない。	専門知識や教養をもとに他者とコミュニケーションをとることや国際的な視野を身に付けることの重要性を意識することができる。	専門知識や教養を身に付け始めており、それをもとに他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を身に付けるための努力をしている。	医療に携わる者として修得した専門知識や教養をもとに限られた場面で他者とコミュニケーションをとることができ、国際的な視野を部分的に形成されている。	医療に携わる者として修得した専門知識や教養をもとに他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野をもって活躍できる。	医療に携わる者として修得した専門知識や教養をもとに他者と円滑にコミュニケーションをとり、国際的な視野をもって活躍できる。	医療に携わる者として修得した専門知識や教養をもとに異なる文化や価値観を持つ他者と協働し、国際的な視野をもって活躍できる。
e	【DP5】最先端の医療に関する知識や情報と問題発見・解決能力	最先端の医療に関する知識や情報を幅広く取り入れた上で、問題点を発見し、それを解決に導くための方法を立案し、実践できる。	最先端の医療に関する知識や情報に触れておらず、問題を発見することができない。	最先端の医療に関する知識や情報を部分的に取り入れることができている。	最先端の医療に関する知識や情報を取り入れた上で、問題点を発見できる。	最先端の医療に関する知識や情報を幅広く取り入れた上で、問題点を発見し、それを解決に導くための方法を立案できる。	最先端の医療に関する知識や情報を幅広く取り入れた上で、問題点を発見し、それを解決に導くための方法を立案し、実践できる。	最先端の医療に関する幅広い知識や情報を活用し、複雑な課題を解決に導くための方法を立案し、実践できる。	最先端の医療に関する幅広い知識や情報を高度に活用し、複雑かつ新規性の高い課題に対して革新的な解決策を立案・実践し、その成果を評価・改善できる。

TUS ルーブリックの達成目標値 (薬学部 薬学科：2026年度新入生)									
記号	評価項目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
a	DP1	1	1.8	2	2.1	2.3	2.5	2.5	2.5
b	DP2	0.5	0.5	0.6	0.7	0.8	1.3	1.6	2
c	DP3	0.25	0.5	0.8	1.25	1.75	2	2.2	2.4
d	DP4	0.7	0.9	1.3	1.5	1.6	1.7	2	2.1
e	DP5	0.1	0.1	0.2	0.3	0.5	0.6	0.8	1

評価項目			ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	説明	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	【DP1】幅広い教養と横断的にものごとを俯瞰する視野	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る教養を身に付けていない。	自然科学、人文科学、社会科学に係る教養を部分的に身に付けている。	自然科学、人文科学、社会科学に係る教養を概ね身に付けており、異なる複数の視点からものごとを捉えることができる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰する視点が部分的に形成されている。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えた横断的かつ俯瞰的な視点から複雑な課題を考察できる。	自然科学、人文科学、社会科学に係る幅広い教養を身に付けており、専門分野の枠を超えた横断的かつ俯瞰的な視点から複雑な課題を考察し、適切に解決できる。
b	【DP2】医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けている。	医薬品の創製に携わる者としての倫理観と使命感を身に付けていない。	医薬品の創製に携わる者としての倫理観と使命感の重要性を意識することができる。	医薬品の創製に携わる者としての倫理観と使命感について部分的に理解している。	医薬品の創製に携わる者としての倫理観と使命感について理解し、説明できる。	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けている。	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感を身に付けており、行動で発揮できる。	医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感をに基づき、周囲の模範となる行動ができる。
c	【DP3】基礎学力、技術及び創薬科学、生命薬学に関する専門知識	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術に加えて、その上に立つ創薬科学、生命薬学に関する専門知識を身に付けている。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力、技術及び創薬科学、生命薬学に関する専門知識を身に付けていない。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術を部分的に身に付けている。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術を概ね身に付けており、創薬科学、生命薬学に関する専門知識を部分的に身に付けている。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術に加えて、その上に立つ創薬科学、生命薬学に関する専門知識を概ね身に付けている。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術に加えて、その上に立つ創薬科学、生命薬学に関する専門知識を身に付けている。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術に加えて、その上に立つ創薬科学、生命薬学に関する専門知識を統合し、研究活動を遂行できる。	医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力及び技術に加えて、その上に立つ創薬科学、生命薬学に関する高度な専門知識を統合し、研究活動を先導できる。
d	【DP4】最先端の医療や科学に関する知識と問題発見・解決能力	最先端の医療や科学に関する知識を積極的に取り入れ、問題解決に向けた適切な方法を立案し、実践できる。	最先端の医療や科学に関する知識に触れておらず、問題を発見することができない。	最先端の医療や科学に関する知識を部分的に取り入れることができる。	最先端の医療や科学に関する知識を取り入れた上で、問題点を発見できる。	最先端の医療や科学に関する知識を積極的に取り入れ、問題点を発見し、それを解決に導くための方法を立案できる。	最先端の医療や科学に関する知識を積極的に取り入れ、問題解決に向けた適切な方法を立案し、実践できる。	最先端の医療や科学に関する知識を活用し、複雑な課題を解決に導くための方法を立案し、実践できる。	最先端の医療や科学に関する知識を高度に活用し、複雑かつ新規性の高い課題に対して革新的な解決策を立案・実践し、その成果を評価・改善できる。
e	【DP5】コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、国際的な視野	研究者として必要となるコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力に加えて、国際的な視野を持って医薬品の創製や人類の健康維持に携わる研究者・技術者として、広く社会に貢献できる。	研究者として必要となるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び国際的な視野を身に付けていない。	研究者として必要となるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び国際的な視野を身に付けることの重要性を意識することができる。	研究者として必要となるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び国際的な視野を身に付けるための努力をしている。	研究者として必要となるコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力を概ね身に付けており、国際的な視野が部分的に形成されている。	研究者として必要となるコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力に加えて、国際的な視野をもって医薬品の創製や人類の健康維持に携わる研究者・技術者として広く社会に貢献できる。	研究者として必要となる高度なコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力に加えて、国際的な視野をもって医薬品の創製や人類の健康維持に携わる研究者・技術者として広く社会に貢献できる。	研究者として必要となる高度なコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力を活用して、異なる文化や価値観を持つ他者と協働し、国際的な視野をもって医薬品の創製や人類の健康維持に携わる研究者・技術者として広く社会に貢献できる。

TUS ルーブリックの達成目標値（薬学部 生命創薬科学科：2026年度新入生）									
記号	評価項目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
a	DP1	0.85	1.5	1.8	2	2.2	2.5	2.5	2.5
b	DP2	1	1.3	1.6	2	2.1	2.5	2.5	2.5
c	DP3	0.3	0.6	1	1.5	2.1	2.4	2.5	2.5
d	DP4	0.2	0.4	0.7	1.1	1.7	2	2.4	2.5
e	DP5	0.7	1.2	1.5	1.7	1.8	2	2.2	2.2